

科目名 (科目番号)	日常生活 活動学実習 (62263)	教員名 縄井清志 高尾敏文 松嶋美正	学科等	理学療法	必修	履修年次	3
			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	2
			オフィスアワー			A303研究室(縄井)	
授業概要	人間の基本的な日常生活活動を理解し、障害に伴う諸問題を分析し、それらの問題解決方法の基本的知識・技術について学習することを教育目標とする。また、代表的な疾患における障害とADLについて理解し、それらの問題の具体的指導方法について学習する。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること						
授業計画	回	授業項目	学習内容・到達目標				
	1	総論	到達目標:本講義の内容と他科目とのつながりが理解できる。 学習内容:本講義の説明と他科目とのつながりについて説明する。				
	2	ADL評価(FIM)	到達目標:FIMが実際に行える。 学習内容:FIMを実際に行い、使用方法、利点、欠点などを学習する。				
	3	ADL評価(BI、他)	到達目標:上記評価が実際に行える。 学習内容:老研式活動能力指標、Barthel Indexを実際に行い学習する。				
	4	QOL評価	到達目標:実際にQOL評価が行える。 学習内容:様々なQOL尺度を実際に用い、使用方法や利点・欠点などを学習する。				
	5	中間テスト	内容:ADL・QOLに関する試験				
	6	動作分析1	到達目標:動作分析を実際に行うことができる。 学習内容:動作分析の方法を演習を交えて学習する				
	7	動作分析2	到達目標:それぞれの動作分析が行える。 学習内容:3班に分かれ、3種類の基本動作の動作分析を実習する。				
	8	動作分析3	同上				
	9	動作分析4	同上				
	10	疾患別ADLの評価と指導1	学習内容:3班に分かれ、疾患別のADLについて学習する。 到達目標:脳卒中、脊髄損傷、運動器障害、等の6種類の障害のADL支援が行える。				
	11	疾患別ADLの評価と指導2	同上				
	12	疾患別ADLの評価と指導3	同上				
	13	疾患別ADLの評価と指導4	同上				
	14	疾患別ADLの評価と指導5	同上				
	15	疾患別ADLの評価と指導6	同上				
成績評価の方法・基準	中間試験(筆記試験):20% 実技テスト(実技試験および口頭試問)80%						
教科書	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第5版(2年次購入済み) 脳卒中の機能評価SIASとFIM		鶴見隆正 編集 茅野直一他編			医学書院 金原出版	
参考図書	シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト		細田多穂 編集			南江堂	
教員からのメッセージ	グループ学習が多いので、遅刻や途中退席は厳禁です。また、身体を積極的に使って学習しますので、アクセサリは必ず外して動きやすい服装で参加してください。授業の進行に応じて内容を変更することがあります。						